

検討の視点及び論点

論点

基本的事項 1 . 評価項目の体系は、「公共事業評価の基本的考え方」(平成 14 年 8 月公共事業評価システム研究会)の体系を基本とする。

<ポイント>

「公共事業評価の基本的考え方」の考え方(総合評価を実施する目的)

- ・ 本来、費用便益分析の結果と、これでは考慮されない効果・影響も可能な限りあわせて評価する必要がある。
- ・ しかし、貨幣化が困難な評価項目については、その評価を具体的に行うことが困難であることから、主に評価者の思考の中で行われてきた。
- ・ これを総合評価手法により、客観的・具体的に示す。
- ・ 評価手法は事業の特性や地域性、評価の実施時期により異なることに十分留意

論点

基本的事項 4 . 評価項目は道路事業の効果を表す主要な項目を設定する。具体的に現行の客観的評価指標(案)を基本として体系的に整理、検討を行う。

基本的事項 5 . 項目ごとの評価方法は、有意な差ができるように定量化方法を検討する。(評価項目によっては、定性的評価項目の併用についても検討する。)

<検討のポイント>

- i 評価項目及び体系の検討(評価項目数、体系、地域性の考慮等)
- ii 評価項目ごとの適切な評価尺度と指標の設定(各指標の点数化の是非等)
- iii 道路種別ごとの検討
- iv 留意点(全指標の統合化(重み付け)との関係、とりまとめ・公表方法との関係)

<具体的検討項目>

i 評価項目及び体系の設定 (資料2 - 4、5 参照)

a) 評価項目の選定

各事業の特性や多様な効果、影響を適切に評価しうる項目の選定を行う。

項目選定のポイント

- ・道路事業の効果、影響について可能な限りもれのないように設定する
- ・評価項目間の独立性に留意する

取り組み方針案

- ・現行の客観的評価指標について、指標の独立性、必要性の低い指標の存在等に関する検証を行う。
- ・総合評価の項目として、追加すべき項目について検討する

b) 評価項目の数

現行の客観的評価指標をベースとすると約50指標となる。

指標数をどの程度とするのか、絞り込む場合の考え方(費用便益分析との関係等)

c) マイナスの影響の評価

事業の及ぼすプラスの効果だけではなく、マイナスの影響(これまでは環境影響評価において評価している環境への影響等)についても評価に反映(評価項目及び指標化において考慮)

d) 地域性の考慮

地域の特別なニーズ(積雪寒冷地/離島/市街地等)を適切に反映するための手法の検討

例: 地域の特別なニーズを評価する項目の追加(または評点化において考慮)

地域性のみに基づく加点、地域別の重み付け等のいずれを目指すのか

e) 評価項目の体系化

「公共事業評価の基本的考え方」に沿った項目構成とするか、「客観的評価指標や社会資本整備重点計画」に沿った項目構成とするのか

ii 評価項目ごとの適切な評価尺度と指標の設定 (資料2 - 6 参照)

a) 指標化の方法

指標の定量化の可能性、点数化の是非、その他指標(定性的記述等)を許容するか等

各指標の点数化の是非

点数化のメリット: 客観性が増す、分かりやすい

点数化の問題点: 地域ごとの特性、問題が適切に表現できなくなるおそれ

取り組み方針案

- ・定量的表現が可能なものは定量的指標とする。
- ・定量的表現が困難なものについては、点数化(5段階等)による表示を検討。その際、段階的評価によっては表せないニーズや問題点等が残るか検証する。

iii . 道路種別ごとの検討

- a) 道路種別ごとに評価項目 / 指標算出方法を異なるものとするべきか、その場合の区分を何に基づいて行うか、
- ・道路の規格
 - ・道路の管理者・事業者(高速道路、都市高速、一般国道、都道府県道、街路等)
 - ・その他
- b) 種別毎の評価手法を検討する場合の視点
- 例：・全国一律の基準であること(広域的に事業間の比較が可能であること)を重んじるか、地域毎のニーズが適切に反映できることを重視するのか
- ・事業規模と評価に要する負担との関係

論点

基本的事項6 . 道路種別ごとに、各々の特性、事業の規模等に応じた適切な手法を検討する。その際、評価指標の統合化(全項目の点数化・重み付け等)の是非、統合化する場合の方法(点数化の方法、重み付けの方法、重み付けの決定主体等)を検討する。

<検討のポイント>

i . 全指標の統合化の是非

統合化のメリット：わかりやすさ

統合化の問題点：一つの数値に集約することによって意思決定のために重要な情報が埋もれてしまうおそれ

ii . 技術的な課題

一律の基準として設定可能か(地域ごとのニーズを反映できるか等)

<具体的検討項目>(資料2 - 7参照)

- a) 指標の統合化の是非に関する具体的な検討(ケーススタディによる検討等)
- b) 重み付けを行う場合の手法
- ・道路種別ごと及び、地域ごとの重み付けとするのか(事業の種別や事業採択の権限等の制度との関係等)
 - ・重み付けを行う場合の主体

論点

基本的事項 9 . 評価結果について透明性の向上を図るとともに、わかりやすい取りまとめ方について検討する。

<検討のポイント>

多くの情報をわかりやすくまとめるため、多元的な評価情報を失うことなく、効果的に整理し、提示する手法であること

i . 意思決定に当たって、本質的に重要な問題認識や、クリティカルな情報が何であるか明確にできること

ii . 意思決定の内容/根拠を一般にわかりやすく説明できること

<具体的検討項目>

とりまとめ方法の検討

a) とりまとめに盛り込む指標数の絞り込み方 (評価対象の指標数との関係)

例 : 最終的には 10 ~ 15 指標程度とする

b) わかりやすく情報を記述する様式、記載方法